寒霞渓の哺乳類

生態系のバランスを考える ～ニホンザルとカンカケイニラ～

小豆島は、瀬戸内海で第2番目に大きな島であることから、四国本島と同じように、たくさんの哺乳類がすんでおり、香川県内の他の島々では見られない多様性がある。寒霞渓は、人里から離れ、地形も険しいことに加え、豊かな森林植生が広がっているため、哺乳類にとって、素晴らしい生息地となっている。

小豆島の代表的な哺乳類は、ニホンザルである。銚子渓と寒霞渓の老杉洞の群は昭和34（1959）年に香川県の天然記念物に指定され、集団になりやすい特徴を持ち、美猿ぞろいとの評判が高い。

今、彼らには1つの疑いがかけられている。香川県指定希少野生生物で、寒霞渓にしか生育していないカンカケイニラという大切な植物が、めっきり減ってしまったが、その原因は彼らの餌になっているからではないかというのだ。

平成25年度の香川県のニホンザル生息状況調査では、老杉洞のニホンザル群は320～350頭に増加しているという。まだ推測でしかないが、もしかするとこの群れの一部が十分な餌にありつけない状態になり、今まで食べなかった植物などにも手を出すようになった可能性も否定はできない。

寒霞渓のニホンザルとカンカケイニラ、どちらも大切な生き物であることには変わりはない。もし、ニホンザルによるカンカケイニラの摂食が事実であり、昔から築かれてきた両者の共存のバランスが崩れてきているとしたら、私たちはこれをどのように受け止め、今後どのような方策を考える必要があるだろうか。

ニホンザル

分布	大きさ
日本（本州、四国、九州）	頭胴長 47～60cm

寒霞渓の鳥類

香川有数の鳥類観察地

寒霞渓の特異な地形は、たくさんの植物や昆虫などの小動物を育んでいる。寒霞渓では、これらを餌にする小さな野鳥からワシ・タカ類にいたるまで、幅広い種類の鳥類を観察することができる。これらの生き物が安心してすめるように、寒霞渓は鳥獣保護区に指定されており、県内でも有数の観察地となっている。

寒霞渓では、森の中に生きる小さな野鳥や、大きな岩々の上空を舞うワシ・タカ類にも目を向けて、この景観を存分に味わっていただきたい。うまく観察するための5つのポイントを紹介するので、参考にしてください。

ポイント①【寒霞渓表12景散策路】寒霞渓表12景の入り口付近からはホオジロ・ヨコドリが、木々のトンネルの続く散策路では、一年を通してヤマガラやシジュウカラ、エナガ、ゴジュウ、メジロ、ウグイスなどの留鳥が見られる。初夏には、巣立ち直後の家族群を、冬には力類などの留鳥の混群も観察できる。

ポイント②【水場】大きな岩のところを流れる浅い小さな渓流は、ところどころが小さな野鳥たちの水浴び場や水飲み場となっている。静かに観察していると、野鳥たちの何気ない日常を見ることができる。

ポイント③【岩場】紅雲亭や層雲壇のように空が広く開けた岩場では、上空を輪を描いて飛ぶトビや、見通しの良い岩場に止まるハヤブサを見ることができる。四望頂からは、内海湾と瀬戸内海を広く見渡すことができ、運が良ければ、捕まえた魚を運ぶミサゴを見ることができる。

ポイント④【春～初夏（4月～6月）】夏鳥の訪れとともに、新緑の森の中では、美しいさえずりや特徴のある鳴き声が楽しめる。オオルリやキンダイムシクイ、ヤブサメ、キビタキ、クロツグミ、ホトトギスなど、多くの夏鳥とに出会える。

ポイント⑤【冬～春（12月～3月）】ロープウエー山頂駅から小豆島の最高峰星ケ城山東峰に続く、登山道周辺の冬場の静かな森では、ウソの鳴き声やアトリの群が見られる。

このように、寒霞渓は四季折々に鳥類観察を楽しめる場所である。この地は鳥類にとって大切な生息地となっており、特に、県内有数の夏鳥の貴重な繁殖地となっている。これからも、この鳥類観察と、豊かな生態系の両方を大切に見守り続けたい。

キビタキ

分布	大きさ
日本列島全土を含む極東アジアで繁殖し、冬期は東南アジアへ渡る。	全長14cm　翼開長22cm

アトリ

分布	大きさ
夏季にユーラシア大陸北部の森林地帯で繁殖し、晩秋に日本に渡ってくる。	全長16cm　翼開長25cm

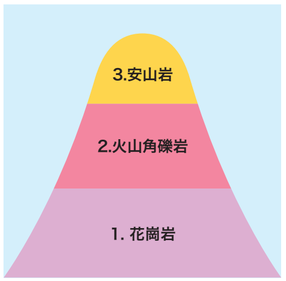
寒霞渓の なりたち

ダイナミックな地球の活動で誕生した稀有な景観と生物多様性

階層	年表	地質のできた経緯
1.	8000～1300万年前	①アジア大陸の東部の地下深くで、マグマが冷えて固って硬い花崗岩層（後の小豆島の基盤）ができた（約8000万年前）。 ②花崗岩は隆起して地表に出ると、地表から風化を受け、脆い砂状の土（マサ）が形成され、また侵食によって削り取られた（約8000～2000万年前）。
2.	1500	③日本海の拡大に伴い1500万年前に現在の場所まで移動。 ④火山活動の直前に陥没し、淡水湖（讃岐湖）の底となった。地下のマグマが、淡水湖の中で噴火。 ⑤湖底で花崗岩の上に火山噴出物が積り、分厚く軟らかな地層（火山角礫岩層）となった。
3.	～1300万年前	⑥火山活動によって大きな火山の山が形成された。(*) ⑦寒霞渓近くの山頂付近で噴火。溶岩が噴出し火山角礫岩層の上に流れ込み、急速に冷えて固まり、板状節理の発達した硬い安山岩層となった。

(*) 安山岩の流れから考えると、現在の高さより高かったと推定される。

瀬戸内海国立公園の代表的な景勝地である寒霞渓は、他に類を見ない、いくつもの条件が重なって誕生した。この経緯を知った上で、改めて寒霞渓を見ると、地球が生きていることを強く感じるに違いない。



小豆島の大半の地質は、上の表に記した地球の活動（地殻変動）により、軟らかな層の上下を二つの固い層で挟んだ三層構造となっている。

1500～1300万年前以降、水蒸気爆発や地震による山体崩壊によって、現在の寒霞渓の原型ができあがった。その後、安山岩層や火山角礫岩（凝灰岩）層は、割れ目やひびに沿って風化と侵食が進み、多種多様で、奇妙な形の岩や崖地で構成される。現在の渓谷美が形成された。この中で、特に秀麗な20の景観は、表十二景、裏八景とたたえられている。

このように形成された寒霞渓の特異な地形は、乾燥して栄養も少ないため、大半の生物にとって生息するには厳しい環境となっている。しかし、このことが結果的に、他の生物の進入を妨げ、寒霞渓に生息・生育する固有の動植物の多様性を生み出し（寒霞渓の植物、寒霞渓の昆虫、寒霞渓の陸貝を参照）、瀬戸内海の自然史を語るとき、この貴重な生態系を現在に残し続けているのである。

石門（セキモン）

上の硬い安山岩層が侵食され、下の軟らかな火山角礫岩層の一部が先に侵食され門のように見える。

松茸岩（マツタケイワ）

硬い安山岩が侵食されて、下の軟らかな火山角礫岩が先に侵食され松茸のように見える。

層雲壇（ソウウンダン）

何回もの噴火で火山堆積物が層になって積り、雲が何段にも重なり合っているように見える。

寒霞渓の昆虫

岩場を好む蛾類の多様性発見の聖地 寒霞渓

寒霞渓の特異な崖地や岩場は、乾燥に強い特異な植物を育んでいる。そして、これらの植物は、これもまた特異な昆虫の食べ物となっている。これら一連の相互関係が発見された場所がここ寒霞渓である。

あまり知られていないことだが、世界で小豆島にしか生息しない昆虫がいる。生息地がこの島に限定される理由は、後ろ羽が退化して飛べないために、他の地域から隔離され、この地で独自の進化を遂げたからだ。具体的には、ショウジマナガチビゴミムシやショウドアキオサムシなどがあげられる。

ところが、小豆島には、遠くまで飛べる羽を持つにもかかわらず、生息地が非常に限られる昆虫も存在する。全国で6箇所でしか生息が確認されていないクビジロツメヨトウという蛾と、全国的にも生息地が局地的に点在しているナマリキシタバという蛾の2種類である。

ナマリキシタバの生息地が局地的であるのは、幼虫（イモムシ）の食べものが、岩場にしか自生しない植物（イワガサ：寒霞渓の植物を参照）だからだ。ナマリキシタバの分布の謎は、昭和55（1980）年に香川県在住の蛾の研究者、増井武彦氏によって解明されたが、その舞台となったのがここ寒霞渓であった。この発見を機に、岩場を好む蛾の存在が、躍注目され、その後、全国各地で同様の事例が多く発見されるきっかけとなった。

小豆島は、地理的、地史的に中国地方とのつながりが深い。このため、中国地方に広く分布するが、瀬戸内の島嶼部では小豆島だけで確認されている見虫がいる。その代表的な種として、乾燥した草原に生息するヒメビカバという蝶があげられる。40年前までは標本によって生息が確認されているが、環境の変化によって現在は見かけなくなった。

このように、寒霞渓は、ここにしかいない昆虫類が生息する、とても魅力のある場所である。是非、この大きな渓谷で、小さなご当地昆虫を探してみてはいかがだろうか。

ナマリキシタバ

分布	翅を広げた長さ
日本（本州、四国、小豆島、九州）、中国	約45mm

クビジロツメヨトウ

分布	翅を広げた長さ
日本（本州、小豆島）	35～40mm

寒霞渓 の植物

寒霞渓で独自の進化を遂げた植物の、異なる経歴とは!?

寒霞渓は、植物が好きな方にとっては色々な意味で、魅力いっぱいの場所だ。世界中で小豆島にしか自生していない固有の植物が見られることに加え、日本三大渓谷美とたたえられる絶景を楽しむことができるからだ。

小豆島には、世界でここにしか自生していない（ご当地植物）がある。それはカンカケイニラとショウドシマレンギョウであり、寒霞渓が非常に重要な自生地となっている。しかし、この2つの植物がこの地に分布を広げ、独自の進化を遂げた経緯は大きく異なっている。

寒霞渓の特異な崖地や岩場に、カンカケイニラとショウドシマレンギョウがしっかりみつくようにして生育する景観を見ていると、気の遠くなるような時間の流れを感じることができるかもしれない。

カンカケイニラ

分布	草丈
日本（小豆島）	約30cm

ショウドシマレンギョウ

分布	樹高
日本（小豆島）	1～2m

ミセバヤ

分布	草丈
日本（小豆島）、中国	20～30cm

イワガサ

分布	樹高
日本（本州（近畿地方以西）、四国、九州）、朝鮮半島、中国	1～1.5m

乾燥した岩場に生える

カンカケイニラ

冷涼な気候を好む植物で、氷期には島の低地にも生育していたが、間氷期になり気温が上昇してからは島の冷涼な高地や渓谷だけに取り残されるようにして生き残った。

寒霞渓に生育する同じタイプの植物

■ミセバヤ
■スハマソウ　など

ショウドシマレンギョウ

日本列島が大陸と地続きであった頃に、朝鮮半島から対馬を経て分布していた植物が他の地域で絶滅（おそらく他の植物との競争に負けて）した後も、島の集塊岩地帯に（乾燥して栄養が乏しい悪条件に耐えて）取り残されるようにして生き残った。

寒霞渓に生育する同じタイプの植物

■イワシデ（裏面を参照）
■イワガサ　など

日本三大渓谷美の立役者

紅葉といえば、赤や黄色の葉を思い浮かべるが、寒霞渓の醍醐味はそれだけではない。渓谷に生育するウリハダカエデ、イロハカエデ、イタヤカエデ、特異な崖地と岩場に生育するイワシデなどの落葉広葉樹が織りなす錦繡を、アカマツやアカガシ、ウラジロガシなどの常緑樹や、岩に着生するシダ植物のイワヒバなどの美しい緑が、より一層鮮やかに際立たせている。

寒霞渓の陸貝

陸貝の宝庫 寒霞渓

寒霞渓には、様々なカタツムリの仲間（以下「陸貝」という。）がすんでいる。小豆島固有の種や、香川県ではここでしか見られない種、小豆島固有の大きさや色彩の種が生息しており、生物地理学的にも重要な地域となっている。

小豆島は知る人ぞ知る陸貝の宝庫である。特に、寒霞渓は谷が深く、うっそうとした広葉樹林に覆われ、大きな岩の隙間やガレ場は1年中安定した温度・湿度を保つことができ、陸貝にとって好適な生息環境となっている。最も注目される陸貝はハタタマイマイだ。殻の直径が5.5㎝にもなる大形のカタツムリで、寒霞渓にしか生息しない固有種とされている。このほか、チャイロオトメマイマイ、クマドリオトメマイマイ類似種などは、香川県では寒霞渓だけでしか見られない貴重な陸貝である。また、県内でも生息地が少ないショウドシマギセルやマヤサンマイマイ、ケハダビロウドマイマイなどにとっても、寒霞渓は貴重な生息地となっている。このほか、県内では普通に見られるセトウチマイマイが、ここでは極端に小形化するなど、遺伝子の多様性の保全上、重要な場所となっている。

しかし、この陸貝の宝庫もいつまでも安泰とは言えなくなってきた。かつて寒霞渓では普通に見られたヤハタマイマイは、その生息範囲が極端に狭くなっており、最近では見つけることさえ非常に難しくなってしまった。また、過去には生息が確認できた種が、最近では死殻さえも見つからないこともある。

環境の変化に敏感な陸貝にとって、わずかな環境の変化でも絶滅してしまう可能性は否定できない。島という隔離された場所で長い年月をかけて適応してきた陸貝に、今は、種を維持することが厳しい時代であると言える。これからも寒霞渓の陸貝をそっと見守っていかなければならない。

ヤハタマイマイ（陸貝）

分布	殻長	殻幅
日本（小豆島）	約32mm	約55mm

香川県指定希少野生生物。

（黒化型）セトウチマイマイ

分布	殻長	殻幅
日本（四国、小豆島、中国地方、九州東部）寒霞渓産の個体	約16mm	約25mm

香川本土では、殻長約21㎜、殻幅約34㎜だが、寒霞渓では小型化する。中には写真のような黒いタイプもいる。

ケハダビロウドマイマイ

分布	殻長	殻幅
日本（東北南部以西の本州、小豆島）	約7mm	約10mm

シロダモやアラカシなどの樹林の倒木下や落葉下、岩の下に生息する。

寒霞渓 新聞

香川の自然ガイドマップ2（第二版）
寒霞渓の自然と生物多様性

第二版

2024年（令和6年）3月29日

発行所
香川県
〒760-8570
高松市番町四丁目1番10号
Tel 087-831-1111（代表）

企画・編集
NPO法人
みんなでつくる自然史博物館香川
〒766-0202
仲多度郡まんのう町中通838
ことなみ未来館3F
Tel 070-4073-0989

賛助
公益財団法人
松平公益会
〒760-0030
高松市玉藻町4番10号

ご挨拶

香川の自然と生物多様性ガイドマップは、県内各地にある香川らしい自然の姿を紹介し、自然と生物多様性についての理解を深めていただくために作成しているものです。

寒霞渓は、集塊岩の風化による奇岩などにより、日本三大渓谷美・日本三大奇景と称えられ、大正12年に、国の「名勝」に指定されました。また、昭和9年に、小豆島を含む備讃瀬戸を中心とした区域が、我が国最初の国立公園「瀬戸内海国立公園」として指定され、寒霞渓は、その代表的な景勝地の一つとなっています。

寒霞渓の自然は、多くの方々に見守られ、大切に保護されてきており、そこには固有の生き物も生息・生育しています。本冊子では、寒霞渓で見られる生き物をとりまとめたマップのほか、地形・地質のなりたちや生き物と寒霞渓との関係なども紹介しています。

さあ、ガイドマップを携えて、寒霞渓の自然や生き物を満喫してください。

参考文献一覧

【植物】❶中本　敏（1979）島の植物誌.私家版.別府出版プードビセンター.206pp.【哺乳類】❷河合雅雄（1969）ニホンザル.河出書房新社.300pp.❸井伊隆三（1988）小豆島の動物.日本の生物.211：35-44.❹浦上仁一（1939）動物物と自然誌未来之.0周合新会.香川師範学校・香川県立女子師範学校.松山県師範郷土研究：36-44.❺財団法人自然環境研究センター（編）（2004）種の多様性調査 哺乳類分布調査報告.環境省自然環境局生物多様性センター.213pp.【陸貝】❻植田誠治（1955）小豆島陸貝目録目録.Nature Study.徳島県博物同小豆島の自然1：23-24.❼矢野重文（1990）香川県小豆島・豊島の陸産貝類目録1.南紀生物32(2):81-88.❽矢野重文（1991）香川県小豆島・豊島の陸産貝類目録2.南紀生物33(1):15-18.【昆虫】❾石井有希・水沢清行（2013）日本産オサムシ図説.昆虫文献 六本脚.368pp.❿香川県自然保護課（編）（1970）さぬきの自然の旅　小豆島の自然.48pp.⓫増井武彦（1977）四国の蛾の分布資料(6).蝶類通信93：621-531.⓬増井武彦（1978）四国の蛾の分布資料VI.蝶類通信98：624-629.⓭増井武彦（1984）ナマリキシタバの幼虫発見まで－5年間の軌跡….蝶類通信95：33-40.⓮村山耀紀（2023）ベッドボトルトラップを利用した香川県周辺昆蟲のクワガタムシ生態調査－2021～2022年調査結果－.鹿角通信46：44-50.⓯村山興紀（2023）灯王.鹿角通信47：94.⓰日本鱗翅学会四国支部（編）（1979）四国の蛾.229pp.⓱小笠原雅・高木貴人・和田洋介（2001）香川県のカミキリ.私家版.東予社.79pp.⓲Ueno, S（1983）Occurrence of a Microphthalmic Trechiama (Coleoptera Trechinae) on the island of Shôdo-shima in west Japan. J.Speleol. Soc. Japan.8:1-6.【地質】⓳長谷川修一・鶴田聖子（2013）讃岐ジオサイト探訪.香川大学生涯学習教育研究センター研究報告.133pp.【共通の文献】⓴特定非営利活動法人みんなでつくる自然史博物館・香川（編）（2021）香川県レッドデータブック 香川県の希少野生生物.香川県環境森林部みどり保全課.308pp.㉑徳島県郷土研究会（編）（1934）讃岐郷土誌本.讃岐郷土研究会.567pp.

写真提供者／お世話になった方
川崎 克美／木谷 優信／佐藤 明／末廣 喜代一／高木 典人／中塚 正香／長尾 健孝／松尾 志郎／小川 直美／安藤 文／山口 晴雨／小切鳥総合開発株式会社（寒霞渓ロープウェイ）／安芸 昌彦／大平 幸男／竹山 一／長谷川 修一／松尾 志郎／山口 晴雨／小切鳥総合開発株式会社／NPO法人 みんなでつくる自然史博物館・香川／香川県立女子師範学校／香川県立高松第一高等学校（旧高松第一女子高等学校）／香川県立高松第一高等学校（旧高松第一高等学校）／香川県立高松第一高等学校（旧高松第一高等学校）／香川県立高松第一高等学校（旧高松第一

寒霞渓の哺乳類

ニホンザルやニホンジカ、イノシシなどが生息し、香川県の島しょ部では、唯一、ムササビが確認されている。

ニホンザル
冬 春 秋 夏
頭胴長47～60㎝。寒霞渓や銚子渓の群れは集団で暮らす傾向が強く、冬には身を寄せ合って温まる光景（猿団子）が有名。

ニホンジカ
冬 春 秋 夏
頭胴長60～190㎝。香川県の県民獣ではあるが、近年個体数が増加し、大きな農林業被害を発生させている。

イノシシ
冬 春 秋 夏
頭胴長110～160㎝。明治8(1875)年頃に豚熱によって一度絶滅したが、近年、海を渡って小豆島に漂着する個体群が多くなり、小豆島一円に生息するようになった。

ムササビ
冬 春 秋 夏
頭胴長27～49㎝。日沈後20～30分して、樹洞から出て樹木の葉や花・実などを食べる。

寒霞渓の爬虫類

寒霞渓の岩の隙間などは、は虫類にとって、絶好の隠れ家となっている。

ニホンマムシ
冬 春 秋 夏
全長40～60㎝。小豆島では、いたる所で生息している。石の下や物陰に潜み、雨上がりや夜に出てくる。ネズミやカエルなどの小動物を食べる。

ニホントカゲ
冬 春 秋 夏
全長20～25㎝。雨上がりの午前中に、日当たりの良い場所で日光浴をする姿がよく見られる。ミミズやクモ、昆虫などの小動物を食べる。

ショウドシマギセル
冬 春 秋 夏
殻長約13㎜、殻幅約3.3㎜。中型の細長いキセルガイ。小豆島と豊島と屋島だけに生息する香川県固有亜種。落ち葉や石の下から見つかる。

セトウチマイマイ
冬 春 秋 夏
殻長15～29㎜、殻幅21～36㎜。樹上性の中型カタツムリで、香川県本土に比べて寒霞渓では何故かが小型化する。殻の黒い斑体も見つかる。

チャイロオトメマイマイ
冬 春 秋 夏
殻長約7.5㎜、殻幅約10.5㎜。香川県では、小豆島中央部の集塊岩地帯だけに生息する小型のカタツムリ。シロダモなどの低木の葉裏から見つかる。

寒霞渓の陸貝

寒霞渓を中心とした集塊岩地帯にしか生息しない種、この島で小型化した種などがいる。

ヤハタマイマイ
冬 春 秋 夏
殻長約32㎜、殻幅約55㎜。世界で、小豆島中央部の集塊岩地帯にしか生息しない、地表性の大型カタツムリ。地元では、カンカケイマイマイとも言われる。

寒霞渓の甲殻類

いくつかの沢にはサワガニが見られる。

サワガニ
冬 春 秋 夏
甲幅約25㎜。沢の水が良好であることの指標となる生物。雑食で藻類や落ち葉、水生昆虫など何でも食べる。

アサヒナカワトンボ
冬 春 秋 夏
体長約50㎜。渓流近くを縄張りとし、付近の林の縁などでも見られる。主に水辺の小型昆虫を食べる。

ケブカマルクビカミキリ
冬 春 秋 夏
体長6～9㎜。寒霞渓の岩場などに自生するネズミサシが幼虫の唯一の食べ物となっている。

寒霞渓の昆虫

寒霞渓に自生する特異な植物に依存する種、移動能力が低いためこの地で特化した種、高標高地に限定的に生息する種などがいる。

トゲアリ
冬 春 秋 夏
体長7～8㎜。香川県本土では減少し、ほとんど見られなくなったが、なぜか小豆島の森では普通に見られる。クロオオアリやムネアカオオアリなどの巣に一時的寄生をする。

ショウドアキオサムシ
冬 春 秋 夏
体長18～28㎜。ミミズや小さい昆虫などをおそって食べる。アキオサムシの小豆島固有亜種。

ミンミンゼミ
冬 春 秋 夏
体長33～36㎜。香川県本土では、主に山地に生息するが、寒霞渓ではどこでも見られる。幼虫は乾燥した傾斜地を好む。

セダカコブヤハズカミキリ小豆島亜種
冬 春 秋 夏
体長10～17㎜。小豆島の高地のごく狭い範囲に生息する。成虫は、後翅が退化して飛べず、枯葉を食べる。

オニクワガタ
冬 春 秋 夏
体長15～27㎜。香川県では本土部の高標高地域（讃岐山脈）に限定的に分布する種と考えられていた。しかし、2021年に小豆町福田で発見され、寒霞渓を含む周辺地域の生物多様性が注目されている。

スジクワガタ
冬 春 秋 夏
体長14～38㎜。香川県では本土部の里山から高標高地域にかけて広く分布するが、島しょ部では小豆島が唯一の生息地となっている。小豆島では寒霞渓を含む山地から広く確認されている。

クロツバメシジミ
冬 春 秋 夏
開長約20㎜。幼虫は岩場や石垣に生えるツメレンゲ等を食べ、成虫はその周辺にのみ生息する。香川県では主に瀬戸内海沿岸部に分布している。

ツメレンゲ
冬 春 秋 夏
草丈10～30㎝の多年草。日当たりの良い岩上や石垣などに生育する。10-11月に密集した白い花を咲かせる。

ミセバヤ
冬 春 秋 夏
草丈10～60㎝の多年草。粉白色した分厚い葉をもつ。10-11月に茎の先端に淡紅の美しい球状の花が咲く。

寒霞渓の植物

歴史的に、この地に取り残されて生き延びている種、秋の紅葉を彩る種など、植物は見どころが満載！

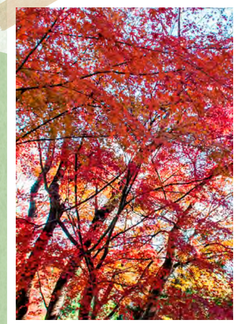
ウリハダカエデ
冬 春 秋 夏
樹高8～10mの落葉広葉樹。樹皮はウリの実のような薄い緑色をしており、葉は扇状角形で浅く3～5裂する。寒霞渓では多く見られる。

イワシデ
冬 春 秋 夏
樹高約3～4mの低木性の落葉広葉樹。小豆島や屋島、五剣山、鎌山、五色台などの岩場や崖地に自生する。寒霞渓では、集塊岩の崖地や岩場（上段）に見られる。

カンカケイニラ
冬 春 秋 夏
草丈10～20㎝の多年草。世界で寒霞渓周辺の集塊岩地帯だけに生えるニラの仲間。8-9月に ネギ坊主のような淡い紅色の花を咲かせる。

イワヒバ
冬 春 秋 夏
高さが20㎝に達するシダ植物で別名イワマツとも呼ばれる。乾燥すると葉を丸く巻いて耐え、雨が降ると濃い緑色の葉を開く。

ショウドシマレンギョウ
冬 春 秋 夏
樹高約1～2mの低木性の落葉広葉樹。世界で寒霞渓周辺の集塊岩地帯だけに生育する。所々に固まって生え、4-5月に黄色い花を咲かせる。



イロハモミジ
冬 春 秋 夏
樹高15mに達する落葉広葉樹。別名タカオカエデとも呼ばれ、葉は掌状に5～9裂し、秋に紅色に紅葉する。

このガイドマップについて

- 寒霞渓には、このマップにある生き物の情報のほかにも、たくさんの素晴らしい場所があります。そんな場所を見つけたら、このマップに書き込んで、皆さんのオリジナルのマップをつくってください。
- このマップでは、自然観察に適した道を紹介していますが、登山道の途中には足元の悪い場所や幅の狭いところがありますので、十分に気をつけてください。
- この地図はデフォルメ表示されていますので、距離の目測には適していません。

ハヤブサ
冬 春 秋 夏
全長38～51㎝。世界最速の動物の一つとして知られ、小さな野鳥を素早く襲って食べる。寒霞渓の上空を飛ぶ姿を1年中観察できる。

センダイムシクイ
冬 春 秋 夏
全長約13㎝。4月初旬頃に香川県に渡ってくる。落葉広葉樹林に生息し、主に昆虫などの節足動物を食べる。寒霞渓は、香川県の中でも有数の観察ポイント！

ウソ
冬 春 秋 夏
全長約16㎝。11月下旬頃に香川県に渡ってくる。山林に生息し、主に木の実や芽、つぼみを食べる。口笛のように「ヒッフッ」と鳴く。

寒霞渓の鳥類

寒霞渓を中心とした小豆島の山々は、小さな野鳥からワシ・タカ類にいたるまで、幅広い種類の鳥類の貴重な生息環境となっている。

ヤブサメ
冬 春 秋 夏
全長約11㎝。4月初旬頃に香川県に渡ってくる。ヤブの中に生息するため、なかなか見つけられない。昆虫類やクモ類などの節足動物等を食べる。

サンコウチョウ
冬 春 秋 夏
全長はオス：約45㎝、メス：約17㎝。5月初旬頃に香川県に渡ってくる。平地から低山の良く茂った林に生息し、主に飛翔している昆虫を捕まえて食べる。

オオルリ
冬 春 秋 夏
全長約17㎝。4月中旬頃に香川県に渡ってくる。山地や丘陵の渓流沿いの森林に好んで生息し、主に飛翔している昆虫を捕まえて食べる。寒霞渓では良く見られる。

コゲラ
冬 春 秋 夏
全長約15㎝。樹木さえあれば、山林から市街地まで様々な環境に生息する。日本で最も小さなキツツキで、木をつついて主に昆虫などの節足動物を食べる。冬にはメジロやカラ類の混群に混じっているのを見かける。

ミサゴ
冬 春 秋 夏
全長54～64㎝。主に海岸に生息し、魚類を襲って食べる。小豆島周辺の瀬戸内海に向かって魚を狩りにでかけていく姿を1年中観察できる。

ヤマガラ
冬 春 秋 夏
全長13～15㎝。主によく茂った林に生息する。雑食性で、夏には主に昆虫やクモなどを食べ、冬には果実を食べる。木の実を樹皮の隙間に貯える習性がある。